

第一部 講演1

繰り返すチック症状に 抑肝散加陳皮半夏が著効した一例



木全 かおり 先生

かわしまファミリークリニック

1998年 岐阜大学 医学部 医学科 卒業
岐阜大学小児科 入局
岐阜大学附属病院および県立岐阜病院にて研修(小児科)
2003年 岐阜大学大学院医学研究科 修了(医学博士)
2004年 木沢記念病院 小児科
2009年 岐阜市民病院 小児科
2011年 かわしまファミリークリニック 副院長

はじめに

小児では心身の発達過程における心因性の症状としてチック症状は少なくない。基本的な治療は、家族ガイダンスや心理教育、環境調整だが、重症例や遷延する場合は抗精神病薬を中心とした薬物療法となるため、副作用に注意が必要である。

東洋医学では小児の神経過敏や興奮に着目し、抑肝散や抑肝散加陳皮半夏、柴胡桂枝湯などを用いる。

症 例

症 例：8歳 男児。

主 訴：のどを鳴らすチック症状、学校での対人トラブル。

図1 症例 8歳 男児

主 訴

のどを鳴らす(チック症状)、学校での対人トラブル

現病歴

- 1歳6ヵ月健診時にことばの遅れがあり、3歳時にことばの遅れと落ち着きのなさを指摘され療育施設に通った。この頃より、のどを鳴らすチック症状を認めた。
- 小学1年生は通常クラスに在籍したが、2年生の8月よりチック症状が悪化した。
- 9月にクラスメイトを押す・たたくなど対人トラブルが増えたため、支援学級(知的クラス)でのサポートを受けることになった。
- その後も落ち着きがなくチック症状が続くため、当院の発達相談外来を受診した。

現病歴：図1に示す。

初診時所見：図2に示す。

診断・治療：知的障害(境界域)、注意欠如多動症(ADHD)、音声チックと診断し、ADHDの中核症状(そわそわして落ち着きがない、話を聞いていない)に対してアトモキセチン塩酸塩を、不安・緊張が強く、言葉で伝えることが苦手、困ると興奮しやすいことに対して小建中湯 2.5g/日(朝食前)と抑肝散 2.5g/日(夕食前)を投与した。

臨床経過：アトモキセチン塩酸塩の服用で対人トラブルは減少し、小建中湯・抑肝散の服用でチック症状も徐々に改善した。3年生になると学習や活動に集中できず、対人トラブルが増加し、落ち着かないため、アトモキセチン塩酸塩を漸減しメチルフェニデート塩酸塩を追加したところ、対人トラブルは消失した。4年生になると咳払いと

図2 初診時所見

視診：身長 135cm、体重 38kg。

大柄で色白。椅子はまわさないが、そわそわしている。

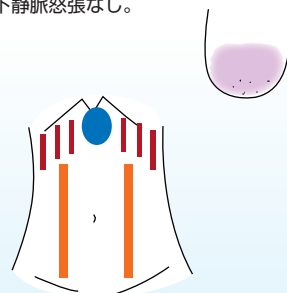
聞診：冷えなし、便秘・下痢なし。声は小さく自信がない様子。

舌診：ピンク色、薄い白苔、舌下静脈怒張なし。

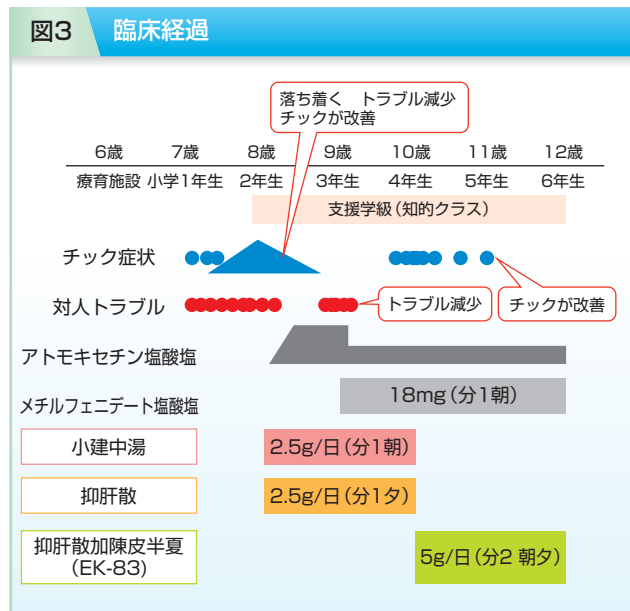
腹診：腹力3/5、心下痞鞭(+)

胸脇苦満 軽度(+)

腹直筋の緊張(++)



げっぷのチック症状が急激に増加したため、漢方薬をクラシエ抑肝散加陳皮半夏(EK-83) 5g/日(分2朝夕食前)に変更したところ、チック症状は徐々に改善し、対人トラブルもなく落ち着いた(図3)。



考 察

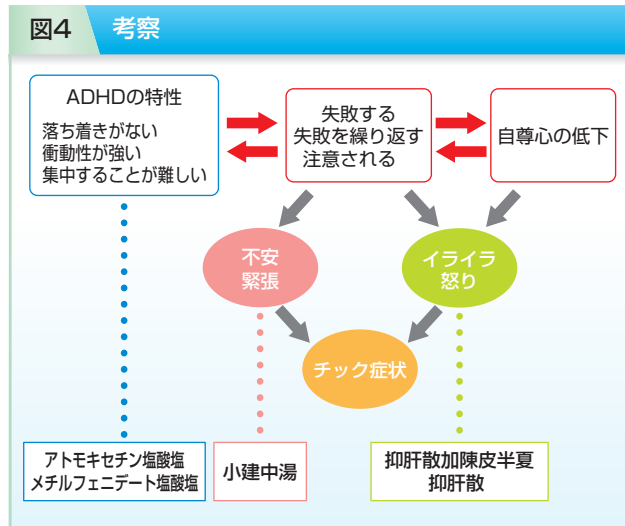
本症例は、新学期や長期休み明けの環境変化が大きい時期にチック症状が悪化した。ADHDの特性も同時期にコントロール不良となりトラブルが増えやすいため、それぞれに応じた治療が必要である。

支援学級で学習サポートを受け、ADHD治療薬で多動や不注意をコントロールすることにより、学習環境でのストレスは減少した。しかし、繰り返し注意されることで自尊心が低下しており、少しのつまずきでイライラし対人トラブルを起こしやすいという悪循環に陥っていることから、

小建中湯で不安や緊張を和らげ、抑肝散でイライラや怒りを抑えることで、対人トラブルやチック症状は軽減した。

さらに、のどを鳴らすチック症状が、咳払いやげっぷのチック症状に変化したため、咽頭部の“湿”や違和感、消化器症状と考えて、抑肝散に去痰作用を有する陳皮と鎮吐作用を有する半夏が加味された抑肝散加陳皮半夏に変更したところ著効した(図4)。

抑肝散は乳幼児の夜泣きや痙攣、痙攣に用いられる処方であり、柴胡と釣藤鈎が配合されることで鎮静や鎮痙の効果は大きい。母親も過敏さや興奮があるときは、母子同服で一層の効果を得られる処方である。



まとめ

本症例のように、経過が長く疲れ切っている症例や胃腸症状がある場合は、抑肝散加陳皮半夏が著効することを経験した。

Discussion

木村: 小建中湯を最初に処方されたということは、このお子さんは、虚証で脾虚だったのですか。

木全: 虚証タイプですが便通に異常はありません。味に敏感な感覚過敏のお子さんには小建中湯から始めて手ごたえをみる人が多いのですが、本症例では飲み残しがありました。しかし、抑肝散加陳皮半夏では飲み残しがありませんでした。

木村: 抑肝散から抑肝散加陳皮半夏への変更についてコメントをお願いします。

木全: げっぷや咳払いが強く、消化器症状があることから陳皮と半夏が含まれる抑肝散加陳皮半夏に変更しました。

木村: チック症状には柴胡桂枝湯も選択肢になると思いますが、鑑別を教えてください。

木全: 怒りやイライラがあり、ストレスが外側に向いて対人トラブルを起こすタイプには抑肝散や抑肝散加陳皮半夏、腹痛などの消化器症状や過剰適応の傾向があり、内側に症状が出やすいタイプには柴胡桂枝湯が有効です。